

平成28年度環境測定分析統一精度管理ブロック会議議事録

－ 九州支部 －

日時：平成28年8月3日（水）10:00～12:30

場所：福岡県保健環境研究所 講堂

1 開会

2 挨拶

福岡県保健環境研究所 所長 香月 進

3 議事

(1) 環境測定分析統一精度管理調査について

環境省水・大気環境局総務課環境管理技術室 室長 田路 龍吾氏

(2) 平成27年度環境測定分析統一精度管理調査結果について

一般財団法人 日本環境衛生センター環境科学部 次長 鹿島 勇治氏

(3) 環境測定分析における留意点及び精度管理について

環境省環境調査研究所 教官 藤森 英治氏

国立研究開発法人国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 主任研究員 山本 貴士

環境省環境調査研修所 教官 渡辺 靖二氏

(4)

1) 質疑応答

(参)：参加者 (助)：助言者・有識者

(参) 平成27年度のアルデヒド類の精度管理分析において、各機関が分析に用いた装置はHPLCによるものが多かったが、そのHPLC分析装置の機種や製造年などによって差が見られる、また、全体の視点から機種や年代の違いで傾向がみられるなどありましたらご教示願います。

(助) 年代による比較についてはデータが無いので不明です。メーカーによる差については、回答を頂いているので解析できる。ホルムアルデヒドとアセトアルデヒド分析のメーカーとしては全部で7社あるが、主なものは4社となっている。解析の結果としてメーカーによって有意な差は無かった。これは検出器がUVなので高度な機器でないため大きな差が出なかったものと思われる。

(参) 先ほどの質問に関連して、メーカー毎の解析を行っているという話なので、機種毎に解析しておられたら教えていただきたい。また、機種のシェア等を含め、傾向等を教えていただきたい。

(助) メーカー毎の比較は行っているが、機種毎になると多岐にわたり、データ数が少なくなるので比較が困難である。シェアについては、中・四国ブロックでも同様な質問が出たが、本調査の主旨とは異なり、この機械は良い悪い、という話になってくるので、お答えできない。環境調査研修所では、異なるメーカーの機種をそろえており、研修も行っているため、是非そちらで目的にあった機種の情報を得ていただき、このような場で情報を共有して欲しい。

(参) 2点教えていただきたい。1点目は外れ値が出た時のフォロー方法やその蓄積はどのようにしてきているのでしょうか。

(助) 外れ値が出た場合は、その原因を調べるためアンケートを実施している。その結果は、報告書の

本編の方に記載している。また、必要な場合は追跡調査を行うなどして、前年度と次年度の経過等と比較・調査する場合があります。

(参) 標準品についてメーカーによる違いが問題になったことがあると聞いている。本調査ではそれは仕方ないとの考え方なのか。

(助) 標準品については、使用しているメーカーや分析者が自作しているのかなどを記載してもらって解析している。農薬などの標準品はトレーサビリティがとれていないものも多いが、最近は、いろんな標準品でもトレーサビリティを確保した試薬も販売されているので、活用してもらいたい。

2) 意見交換

(助) この事業をさらにブラッシュアップして継続するために、せっかくの機会なので、各機関の皆様にご質問させていただきたい。質問は4つあり、①統一精度管理事業を継続する意義を自治体としてどのように考えるか、②参加して output をどのように活用しているのか、③事業の改善点、④改善点以外に諸々の要望を機関ごとに回答していただきたい。

(参 A) ①本事業は継続して頂きたい。理由は、参加することにより改めて試験方法を見直す機会となり、技術の向上に役立っているため。②報告書に示されている外れ値の原因解析が大変参考になっている。③改善点は、ホームページからの申込時に、PDF 出力する機能をつけてほしい。④要望等はない。

(参 B) ①本事業は継続の必要有りと考え。②研究する上で分析精度の確保が必要なので継続して欲しい。外れ値が出たときには大変有意義である。③、④、その他要望はなし。

(参 C) ①初めての参加だが、継続していただきたい。水質の項目が多かったが、今後は大気も続けて欲しい。②普段は行わない分析条件等の再検討に活用できた。④特になし。

(参 D) ①毎年参加させていただいているが、異動が激しい職場だが、技術の継承のために継続していただきたい。②SOP の見直しに活用した。③HP に入力する場合、項目毎に入力する必要があるが、入力を少しまとめてできるようにしていただけたら助かる。④大気の試料については調製が難しいかもしれないが、継続して対象にしていただけたらと考えます。

(参 E) ①今後も継続していただきたい。大気はサンプリングが難しく、全体的に分析は間違っていないかということを確認できるため、この事業は継続していただきたい。②手順の見直し等に活用させていただいた。③できれば、外れ値が出た場合、そのサンプルを再測定したい。報告書を読んだ後に再試験したいので再配布または販売してほしい。一昨年あたりに外れ値が出たが、再試験できないままになったことがあったので、もう一度確認するために検討していただきたい。④、その他要望なし。

(参 F) ①異動により経験が無い職員が担当する場合も有り、分析精度を確認できる本事業は大いに継続していただきたい。②外れ値が出た場合に分析の改善に活用できる。③特になし。④27年度イオン成分だったが、無機成分を実施していただきたい。

(参 G) ①継続していただきたい。②活用法としては、同業者、例えば JICA 等で研究機関の方が来所された際に、検査の値はどのように担保しているか、という質問を受ける。その時に、当所は環境省主催の精度管理に参加して精度を担保していると回答している。③改善点は、昨年度水質分野がなかったため、各分野が参加できるように配慮していただきたい。④その他要望はありません。

(参 H) ①皆さんと同様にぜひ継続していただきたい。或いは拡大して欲しい。②活用法としては、行政向けのアピールに活用している。具体的には、工場廃水の水質検査等で処分場の浸出水分析など行政処分に関わる検査をする際、環境省の精度管理に参加しているため精度は担保されているとアピールしている。③④改善点や要望としては、外れ値が出た場合のフォローアップや情報の共有化をもっとしていただきたい。検体の種類をもっと拡大してもいいと思う。

(助) 外れ値のフォローアップの情報共有化についてももう少し具体的に意見があれば教えて欲しい。

(参 H) 報告書でフォローアップはなされているが、さらに、ブロック会議などの場で徹底して情報共有して欲しい。

(参 I) ①継続していただきたい。最近、人事異動が多くあるので技術の継承のために必要である。② SOP の把握、見直し等に活用している。③④改善点・要望としては、アスベストの検体等を加えて欲しい。

(助) 各機関からのご意見ありがとうございました。事業については継続していただきたいという意見で、活用法としては、技術の継承、見直し、外れ値の対策などが出されました。HP や報告書の入力方法の改善などできるところはやっていきたいが、試料の選定については、コストとか行政ニーズなどもあるので、また相談していきたい。総じて、本事業を活用していることがわかったので、積極的に継続していきたいと思う。今後も個別具体的な意見等がありましたら、環境省の方へお知らせ下さい。本日はありがとうございました。

(助) 昨日、福岡市の方で、説明会を行ったが、参加者が20名と少ない状況だった。外れ値がない場合には、やはり説明会に出てくることは難しいのだろうか？また、九州は福岡だけなので各地からの旅費の面とか難しい面等があるのだろうか？

(参) 説明会には外れ値がなくても参考になる分もあります。

(助) 各機関の分析時に認証標準物質を使うことは難しいでしょうか？

(参) 金属分析などの場合には、使用している機関もあるが、使用していない機関もあります。

(助) 国環研からも認証標準物質を販売しているので、検討してほしい。

4 次期開催機関挨拶

福岡県保健環境研究所

5 閉会